

Title	慶應義塾経済学会コンファレンス：貨幣の機能とその役割
Sub Title	序 Preface
Author	吉野, 直行 塩澤, 修平 須田, 伸一
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1997
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.90, No.3 (1997. 10) ,p.486(18)- 488(20)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：貨幣の機能とその役割
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19971001-0018">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19971001-0018</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 慶應義塾経済学会コンファレンス 貨幣の機能とその役割

金融を取り巻く環境は大きく変化しており、我が国でも生命保険や中小銀行の経営破綻が発生し、世界的にもタイのバーツ不安などの通貨不安、EUの統一通貨構想等々、貨幣を巡る動きが活発化している。

このような環境変化のもとで、貨幣の理論的問題を扱うコンファレンスを開催することは意義のあることではないかと考え、1996年度の慶應義塾経済学会コンファレンスは、「貨幣の機能とその役割」に関するテーマを議論した。96年6月7日から8日の2日間、一橋大学の佐野書院に於いて、海外からの数名の参加者を含む30名の研究者の参加を得て実施された。さらに、97年2月12日に、慶應義塾大学に於いて、引き続きコンファレンスが開催され、3名の報告と18名の参加による活発な議論が展開された。

なお、プログラムの作成・運営は、吉野直行・須田伸一・塩澤修平が中心となって行った。

### 1996年6月7日（場所：一橋大学、佐野書院）

14：00—14：15 開会挨拶：川又邦雄

14：15—15：30 松井彰彦：Strong Currency and Weak Currency

15：45—17：00 Jayasri Dutta and Sendee Kapur：Financial Intermediation and Monetary Policy

17：15—18：30 福田慎一：Multiple Equilibria in the Endogenous Growth Model with the Cash in Advance Constraint

### 1996年6月8日

10：00—11：15 小野善康：Money in Keyens' General Theory

11：30—12：45 Edward Green：The Efficiency of Debt-Settlement Intermediation

14：15—15：30 Melvin Coles and Randall Wright：A Dynamic Equilibrium Model of Search Bargaining and Money

15 : 45—17 : 00 Yiting Li : Middleman and Private Information

17 : 15—18 : 30 Edward Green and Ruilin Zhou : A Rudimentary Model of Search with Divisible Money and Prices

メルヴィン・コールズ, ランドール・ライト「探索, 交渉および貨幣の動学的均衡モデル」は, Kiyotaki-Wright モデルに始まる探索理論を交換過程に適用した貨幣経済モデルが定常状態に分析を限定している点を改良し, 動学的均衡経路を定常状態に限定することなく微分方程式で近似し, その結果を動学的な問題に適用している。

ジェアスリ・ドゥッタ, サンディーブ・カプー「流動性選好と金融仲介」では, 流動資産の予備的需要の問題を扱い, 流動性制約のもとで消費需要がどのように決定されるのか, また社会的厚生が金融システムにどう依存するかが示される。

エドワード・グリーン「債務決済の仲介に関する小論」では, 市場制度を市場参加者間の情報ネットワークとみなして, 貨幣と信用の問題を分析し, 金融政策当局が債券の流通市場に介入して貨幣供給量を一定のパターンで変動させることによって社会的厚生を高めうことを示している。

エドワード・グリーン, ルイリン・ジョウ「分割可能な貨幣と価格を持つサーチの基本モデル」は, Kiyotaki-Wright モデルを一般化し, 貨幣が分割可能で経済主体の貨幣保有量に制限のない場合を検討し, 貨幣と財の交換比率に関してより詳細な分析を行っている。さらに, 名目貨幣のストックとフローの変化の経済効果を分析する枠組みを提供している。

イーティン・リー「仲介者と私的情報」は, 財の品質に関する情報の非対称性をモデルに組み入れ, 仲介者が内生的に発生することを説明し, 仲介者の存在が経済厚生に与える影響について分析している。

以上が, 96年6月7・8日のコンファレンスで報告された論文の中で, 本号に掲載されている論文である。当日は, これらの論文の他に, 松井彰彦論文「Strong Currency and Weak Currency」, 福田慎一論文「Multiple Equilibria in the Endogenous Growth Model with the Cash in Advance Constraint」, 小野善康論文「Money in Keyens' General Theory」の3つの論文も報告された。

**1997年2月12日 (場所: 慶應義塾大学北新館1F, 会議室)**

金融コンファレンスの開催にあたって (川又邦雄)

司会, 浜田文雄, 林直嗣

13 : 00—14 : 15 吉野直行「日銀の独立性と金融政策の運営」

14 : 30—15 : 45 塩澤修平「賦課方式年金保険システムと人口成長率」

16 : 00—17 : 15 須田伸一「貨幣の非中立性と金融政策の効率性」

吉野直行論文「日銀の独立性と金融政策の運営」では、我が国の戦後から今日のマクロ経済の景気循環と金融政策との関連、日本銀行の金融政策の決定プロセス、金融政策の効果が分析される。塩澤修平論文で「賦課方式年金保険システムと人口成長率」は、人口成長率の変化に対し、賦課方式の年金保険システムのもとでの負担額や消費者の期待効用への影響を、重複世代モデルを用いて理論的に分析する。須田伸一論文「貨幣の非中立性と金融政策の効率性」は、経済主体が合理的に将来を予想したと仮定しても、貨幣の中立性が成立しないことを、不完備な金融市場の理論を用いて示している。

以上が、慶應義塾経済学会の援助をいただいて行った「貨幣の機能とその役割」に関する2回のコンファレンスの内容である。最後に、貨幣に関する研究コンファレンスへの援助をいただいた慶應義塾経済学会に対し、感謝致します。

吉 野 直 行 (経済学部教授)  
塩 澤 修 平 (経済学部教授)  
須 田 伸 一 (経済学部助教授)